

学年									
小学校						中学校			
1	2	3	4	5	6	1	2	3	
小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 3年 年間指導計画									
月	単元名	からだづくり運動 (年間7単位時間以上)				単元の系統性	第1学年及び第2学年での体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法を理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようにすることをねらいとした学習を受けて、第3学年では、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことを学習のねらいとしている。		
学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
4 ・ 通 年	<p>・体ほぐしの運動(年間7単位時間以上) 例)ラジオ体操、集団行動、鬼ごっこ、足でジャンケン&あっち向いてほい…など</p> <p>・実生活に生かす運動の計画(年間7単位時間以上) 例) 健康に生活するための体力の向上を図る運動の計画と実践 体力の向上を図る運動の計画と実践…など 〈主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>〈主体的〉 第1・2学年で取り組んできた運動を参考にして、自分の生活に生かすために必要な体力向上のための運動を自ら計画し、実践する。 〈対話的〉 運動の計画の段階で、①ねらいは何か②いつ、どこで運動するのか③どのような運動を選ぶのか④どの程度の運動強度、時間、回数で行うのかなどに着目して運動を組み合わせられるようにグループで意見交換をさせる。 〈深い学び〉 運動を授業内に留めずに、自らのライフプランに応じてどのように取り入れていくかを考えたり、計画をさせたりすることで、生涯スポーツへの橋渡しにする。</p>						<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①体ほぐしの運動では、ペアやグループ学習にすると自ら仲間と関わりに行くことができない生徒がいる場合がある。</p> <p>②運動やスポーツに対して苦手意識をもっている生徒は、計画を立てることに抵抗を覚える可能性がある。</p>		
	<p>①体育委員や学級委員などの中心となる生徒とあらかじめペアを作るよう促したり、鬼ごっこなどの全体が関わり合うような運動を多く取り入れるようにする。</p> <p>②運動強度や運動回数などは、自分の能力に応じて自分で考えて決めて良いということを確認に指導し、体育理論や保健の内容と照らし合わせながら、運動やスポーツをすることの意義を踏まえて考え、実践する機会を増やす。</p>						工夫・手立て		
評価規準									
知識・技能		<p>次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むこと。</p> <p>ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気づき、仲間と自主的に関わり合うこと。</p> <p>イ 実生活に生かす運動の計画では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むこと。</p>				思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
<p>・学習カード ・定期考査</p>						<p>自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p>		<p>体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保すること。</p>	
<p>・学習カード ・定期考査</p>						<p>・学習カード ・定期考査</p>		<p>・行動観察 ・学習カード</p>	

学年							小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 3年 年間指導計画			
小学校			中学校							
1	2	3	4	5	6	1	2	3		
月	単元名	陸上競技 (19時間)				系統元性	第1学年及び第2学年の基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることをねらいとした学習を受けて、第3学年では、各種目特有の技能を身に付けることを学習のねらいとしている。したがって、第3学年では、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができるようにする。その際、動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにすることが大切である。			
4 ・ 5 ・ 12 ・ 1	学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫				
	<p>・短距離走、リレー 50m走、ハードル走 ・走り高跳び はさみ跳び、背面跳び、記録会 ・長距離走 1500m走、12分間走、ロードレース大会 (主體的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫) (主體的) 体力テストの点数表や、前時の自分の記録などを毎回提示し、自分の到達可能な目標を設定させて、自己実現の機会を多くする。走り高跳びでは、自分の走力や身長を基に目標記録を設定させ、そこに対する取り組みを評価する。 (対話的) ハードル走や12分間走では、ペアの中でフォームをチェックし合ったり、ラップタイムを意識し合ったりするような対話の機会を多くさせる。ハードル走や走り高跳びでは、試技の様子を動画で撮影し、それを見合いながら改善策などを伝え合う活動を取り入れる。 (深い学び) 長距離走では、脈拍から運動強度を算出し、自分の体力に適したペースが設定できているのかを考えさせる。 走り高跳びでは、背面跳びの効率的な方法を理解し、はさみ跳びより記録を向上させられるかを試してみる。</p>					<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①ハードル走では、自分に適したインターバルなどが分からずに、3歩で走れない生徒もいる。 ②長距離走では、運動強度に耐えられず意欲を失ってしまう生徒がいる。 ③走り高跳びでは、バーに対してや跳ぶことに恐怖心を覚える生徒もいる。</p>				
						<p>工夫・手立て</p> <p>①無理に3歩で挑戦するよりは、5歩などで調整した方がハードリングタイムが縮むこともあるということを伝え、インターバルの距離を共に考える。 ②速く走ることより、ペースを守って走ることに関心を当て、それが達成できたときに適切に評価する。 ③初めて学習する内容だということを踏まえて、基本となる運動から段階的に指導していく。</p>				
知識・技能		<p>次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。 ア 短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡して次走者のスピードを十分高めること、長距離走では、自己に適したペースを維持して走ること、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すこと。 イ 走り高跳びでは、スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切り滑らかな空間動作で跳ぶこと。</p>			思考・判断・表現		動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。		主体的に学習に取り組む態度	
<p>・学習カード ・実技テスト ・定期考査</p>					<p>・学習カード ・実技テスト ・定期考査</p>		<p>・行動観察 ・学習カード</p>			

学年							小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 3年 年間指導計画		
小学校			中学校						
1	2	3	4	5	6	1	2	3	
月	単元名	器械運動 (6時間)				系統性の	第1学年及び第2学年での技をよりよく行うことをねらいとした学習を受けて、第3学年では、技ができる楽しさや喜びを味わいながら、運動観察の方法や体力の高め方を理解するとともに、自己に適した技で演技することができるようにする。		
11	学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫			
	<p>・マット運動(6時間) オリエンテーション 回転系と巧技系の技の習得 発表</p> <p>〈主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉 (主体的) 自ら技のまとまりや、系統について知り、自らの意志で挑戦する技を選択させる。選択した技ごとに最高点を提示し、その最高点を目標として主体的に練習をさせる。 (対話的) ICT機器などを活用して、お互いに映像を撮るなどすることで、互いの良いところや改善点などを話し合う活動を取り入れる。 (深い学び) 技の系統や技群ごとに美しく見せる方法を提示することで、技の完成度を高める喜びを味わわせる。</p>					つまずきやすいポイント	<p>①回転と同時に手の平をマットにきちんと付けることが難しく、前転系や後転系ができない。</p> <p>②柔軟性が無い生徒は、開脚や伸膝系の技が難しい。</p> <p>③自らの動きを客観的に捉えられないので、手足をきちんと伸ばしたり美しく見せたりすることができない。</p>		
						工夫・手立て	<p>①ペアで学習をさせ、補助させ合うことにより、手のひらをマットに付けることを徹底させる。</p> <p>②授業の導入時に柔軟運動を取り入れる。放課後の宿題として、柔軟運動をさせる。保護者にも協力を仰ぐようなチェックシートを用意する。</p> <p>③ICT機器を利用して、自らの動きを客観的に視覚的に捉えて自らの動きを把握させる。</p>		
評価規準									
知識・技能	<p>技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技すること。マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。</p> <p>・学習カード ・実技テスト ・定期考査</p>				思考・判断・表現	<p>技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>・学習カード ・実技テスト ・定期考査</p>		主体的に学習に取り組む態度	<p>器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讀えようとする、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。</p> <p>・行動観察 ・学習カード</p>

学年									小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 3年 年間指導計画					
小学校			中学校											
1	2	3	4	5	6	1	2	3						
月	単元名		水泳 (11時間)			系統性の			第1学年及び第2学年の泳法を身に付けることをねらいとした学習を受けて、第3学年では、効率的に泳ぐことを学習のねらいとしている。したがって、第3学年では、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができるようにする。					
学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫								
6 7 8 9	<p>・水泳 クロール、平泳ぎ、バタフライ、10分泳、遠泳大会、AED講習</p> <p>〈主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉 (主体的) 習熟度別に学習させるために学習課題に応じていくつかのグループに分け、自分の泳力に応じて自ら課題を選択することで、目的意識をもって取り組ませる。また、10分泳では記録の向上に挑戦することで自ら進んで学習に取り組ませる。 〈対話的〉 ペアでフォームのチェックや、10分泳のペースの管理をしようなど、どう泳いだら効率が良くなるかを話し合う機会をつくる。 〈深い学び〉 学習の導入の場面などで、背泳ぎやバタフライに必要な補助運動を取り入れるなどして、新たな泳法に触れさせ、バタフライに挑戦し、25m泳げるようにする。</p>					つまずきやすいポイント		<p>①泳ぐことに苦手意識をもっている生徒が多い。</p> <p>②幼少期から海で遊んでいるため水に浮かぶことはできるが、細かい泳法を学んでいるわけでは無いため、適切なフォームで泳げない生徒もいる。</p>						
	工夫・手立て		<p>①習熟度別に学習を行う際に、ビート板などの補助道具を用いて初期段階から学び直させる。</p> <p>②ペア学習や、個別指導を通してクロールと平泳ぎの適切なフォームを指導したり、お手本を動画で見せるなどして良いフォームを習得できるようにする。</p>											
評価規準														
知識・技能			<p>次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐこと。 ア クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりする。こと。 イ 平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりする。こと。 ウ 背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐこと。 エ バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐこと。 オ 複数の泳法で泳ぐこと、又はリレーをすること。</p>			思考・判断・表現			<p>泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p>			主体的に学習に取り組む態度		
<p>・学習カード ・実技テスト ・定期考査</p>						<p>・学習カード ・実技テスト ・定期考査</p>			<p>・行動観察 ・学習カード</p>					

学年							小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 3年 年間指導計画		
小学校						中学校			
1	2	3	4	5	6	1	2	3	
月	球技 (32時間)					系単 統元 性の	第1学年及び第2学年の基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することをねらいとした学習を受けて、第3学年では、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することを学習のねらいとしている。したがって、第3学年では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。		
学習活動							「わかる」から「できる」授業への工夫		
9 ・ 10 ・ 1 ・ 3	<p>球技</p> <p>①バドミントン クリアー、ドロップ、ヘアピン、スマッシュなどの習得 シングルスとダブルスの試合</p> <p>②バレーボール フローターサーブ、サーブレシーブ、3段攻撃、ゲーム</p> <p>③ソフトボール キャッチボール、トスバッティング、ゲーム</p> <p>④バスケットボール パス、ドリブル、レイアップシュート、ゴール下のシュート、3on2、ゲーム</p> <p>(主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫) (主体的) ペアやグループなどで教え合いの機会を多くすることで、関わり合いの中で主体的に学習に取り組むようにする。 (対話的) 条件付きの練習やゲーム、また正規のゲームを通してチームがより良くなる方法を話し合わせる機会を多くし、そこで出たアイデアを発表するなどの活動を行うことで言語活動を多くする。 (深い学び) どの球技においても作戦会議の時間を多くし、競技の特性やチームの能力に応じた作戦を立てて実行し、それに対する振り返りを行うなどして深い学びへと繋げていく。</p>					つ ま ず き や す い ポ イ ン ト	<p>①ボールに対して恐怖心をもってしまってボールに関われない生徒がいる。</p> <p>②得意な生徒とそうでない生徒の二極化が生まれてしまう。</p> <p>③チームの活動に積極的に参加できない生徒がいる。</p>		
						工 夫 ・ 手 立 て	<p>①まずは、ボールに慣れるような補助運動をオリエンテーションの中で取り入れる。そしてそれを毎回の導入時に行うなどして徐々に恐怖心を除いていく。</p> <p>②習熟度に差がある生徒同士をペアにすることで、教え合いの中で学習する機会を多くする。</p> <p>③チームの活動だけでなく、個人でも本時の内容を振り返られるような学習カードを用いる事で、自分の課題や振り返りをチームでも共有できるような働きかけを意識する。</p>		
評価規準									
知識・技能		<p>次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。</p> <p>イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。</p> <p>ウ ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること。</p>			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> 学習カード 実技テスト 定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> 学習カード 実技テスト 定期考査 			<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 学習カード 				

学年									小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 3年 年間指導計画				
小学校						中学校							
1	2	3	4	5	6	1	2	3					
月	単元名	ダンス (13時間)				単元性の系	第1学年及び第2学年のイメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をすることをねらいとした学習を受け、第3学年では、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすることを学習のねらいとしている。したがって、第3学年では、感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をする。						
学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫							
<p>現代的なリズムのダンス グループ学習、発表 連合運動会に向けての全校での取組</p> <p>〈主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉 〈主体的〉 いくつかのグループに分け、ダンス経験者からリーダーをつくり、リーダーを中心に自分たちで曲や振り付けを考えさせて学習する活動を取り入れる。 〈対話的〉 生徒同士の教え合いや発表会の中で、お互いを評価し合う時間を取り、アドバイスや反省点を指摘し合う活動を取り入れる。 〈深い学び〉 連合運動会では、全校での発表となるため、異学年との交流の中で更に深い技術や表現の仕方、伝え方を学ぶ事ができる。</p>						<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①ダンスを習ってきていない生徒が苦手意識をもつことがある。 ②細かいステップや速いリズムについていけない生徒がいる。</p> <p>工夫・手立て</p> <p>①習熟度を考慮してグループ分けをすることで、教え合う機会を多くする。また、見合う活動を通して評価してもらう経験から、自ら学ぶ意欲を醸成する。 ②細かいステップや速さにこだわるより、集団としての見栄えを意識させ、大きなうごきやまとまりの中で表現するような指導をしていく。</p>							
9・2						評価規準							
知識・技能		<p>次の運動について、感じを込めて踊ったり、みんなですべて自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすること。 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ること。</p>				思考・判断・表現		<p>表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p>		主体的に学習に取り組む態度		<p>ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> 学習カード 実技テスト 定期考査 						<ul style="list-style-type: none"> 学習カード 実技テスト 定期考査 				<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 学習カード 	

学年										小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 3年 年間指導計画										
小学校					中学校															
1	2	3	4	5	6	1	2	3												
月	単元名	保健分野 (16時間)				系統元	小学校では、健康の大切さや健康によい生活、病気の起こり方や予防などについて学習している。それを踏まえて中学生では、人間の健康は主体と環境が関わり合っていることや、健康を保持増進し、疾病を予防するためには、それに関わる要因に対処する適切な対策があることについて理解できるようにする必要がある。													
通年	学習活動								「わかる」から「できる」授業への工夫											
	<p>健康な生活と疾病の予防③(8時間) 感染症の広がり方・予防、性感染症・エイズの予防、医薬品・保健医療機関の利用 健康を守る社会の取り組み、保健の学習の振り返り</p> <p>健康と環境(8時間) 身体对环境に対する適応能力・至適範囲 飲料水や空気の衛生的管理 生活に伴う廃棄物の衛生的管理</p> <p>(主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫) (主体的) 自らの身体のことから、社会の健康に対して目を向けさせて、この学習内容が、生涯にわたって暮らしていくこの社会にとって必要な内容だと理解させることで、興味関心をもって学習できるように促す。 (対話的) 自らの生活や状況と、学習内容と照らし合わせてより良い生活態度にしていくために、よりよい社会にしていくためにどの様に自分が関わっていくかを具体的に考えさせ、発表し合い、評価し合う。 (深い学び) 自らの生活と社会環境が密接につながっていることを踏まえ、生涯にわたって健康でせいかつできるようにするためにどのような行動と摂れば良いのか、どのような機関を利用していけば良いのかなどを自ら調べ、ワークシートやレポートやスライドなどを用いて発表できるようにする。</p>								つまずきやすいポイント		<p>①客観的に自分の生活を振り返り、自らの生活と照らし合わせることができない生徒がいる。</p> <p>②社会の仕組みなどに興味を抱けずにいる生徒もいると考える。</p>									
									工夫・手立て		<p>①保護者の協力を得るなどして、客観的に見た自分の生活状況はどうなのかを振り返る機会を設ける。</p> <p>②保健所と連携して、専門的部門からの講義やインタビューなどを通して学習することで、意欲的に取り組める様にする。</p>									
評価規準																				
知識・技能		<p>感染症は、病原体に感染することによって起こる病気であり、それらを予防するための方法を理解している。また、性感染症などはどのような感染経路を辿るかなどを知っており、その予防法を理解している。健康の保持増進や病気の予防には、個人が行う取り組みとともに社会の取り組みが有効であること。医薬品は正しく使用が必要があることなどについて理解している。健康と環境は密接に関連しており、その適応についてや、望ましい環境とはどのような環境なのかを理解している。</p>				思考・判断・表現		<p>感染症や性感染症の原因や予防。また個人の健康を守る社会の取り組みや医薬品の有効利用について課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。健康と環境についての関係性や望ましい環境範囲について知り、自身の身の回りの課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともにそれらを表現している。</p>				主体的に学習に取り組む態度		<p>健康な生活と疾病の予防や健康と環境についての学習など、自他の健康の保持増進について自主的に取り組もうとしている。</p>						
		<p>・ワークシート ・定期考査</p>						<p>・ワークシート ・定期考査</p>						<p>・ワークシート ・行動観察</p>						

学年							小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 3年 年間指導計画		
小学校						中学校			
1	2	3	4	5	6	1	2	3	
月	単元名	体育理論 (年間3単位時間以上)				系単元性の	体育理論は、主に中学校期における運動やスポーツの合理的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送る上で必要となる運動やスポーツに関する化学的知識等を中心に示しているため、これからの生活に関連づけて系統性を保っていきけるような指導が求められる。		
通年	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫		
	文化としてのスポーツの意義(年間3単位時間程度) 現代生活におけるスポーツの文化的意義 国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な意義や役割 人々を結びつけるスポーツの文化的働き (主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫) (主体的) 自らの生活やスポーツライフと関連付けることで、興味関心をもって学習に取り組めるようにする。 (対話的) 学習内容について、自らの考えを発表することや、相手の考えを傾聴するなどの時間を取り入れる。 (深い学び) 学んだ内容が、今後の人生でどのように活かすことができるかなど、自分の将来につながる学習内容であることを確認する。						つまずきやすいポイント	①運動やスポーツにあまり興味や関心もなく、関わっていない生徒は、自らの生活と関連付けたり意欲的に学習に取り組むことができない。 ②国際的なスポーツ大会の意義などを理解できず、興味をもてない生徒がいる可能性がある。	
							工夫・手立て	①スポーツは、個人や国内だけに留まらず、国際的な役割も果たしてきた歴史的な背景にも触れ、興味感心を引き出す。 ②オリンピック・パラリンピック教育などを通じて、国際的なスポーツ大会がもたらした影響を伝えることで、意義を連想させやすくする。	
評価規準									
知識・技能	スポーツは、文化的な生活を営み、よりよく生きていくために重要であることを理解し、オリンピックやパラリンピックおよび国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることを理解するとともに、スポーツは、民族や国、人種や性、障がいの違いなどをこえて人々を結び付けていることを理解している。				思考・判断・表現	スポーツの文化的意義や国際的なスポーツ大会の文化的な役割、また人々を結び付けるスポーツについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。		主体的に学習に取り組む態度	スポーツの文化的意義、国際的なスポーツ大会の文化的な役割や人々を結び付けるスポーツについての学習に自主的に取り組もうとしている。
	・ワークシート ・定期考査					・ワークシート ・定期考査			・ワークシート ・行動観察